



夏山海岸の日の出(太地町)

特集①

## 心臓血管病センターの 設置について

特集②

## 新しい治療への取組 CAR-T細胞療法

### CONTENTS

Topics …… 就任挨拶(救急・集中治療医学講座、救急科教授)／  
青洲リンク記念講演について／診療科・中央部門  
紹介(薬剤部)／術後疼痛管理チームについて／院  
内ボランティアの活動紹介

Information …… VRによる自宅仮想現実映像を用いた緩和ケアへの  
応用／VRを用いた新しい医学教育の実践～臨床実  
習における教育効果～／がんプロフェッショナル  
養成プラン市民公開講座のお知らせ／最新の医学・  
医療カンファランスのお知らせ／医学生の診療参  
加型臨床実習について／医学部の使命について

#### 理 念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の  
保健医療の向上に貢献します。

#### 基本方針

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な  
説明と理解に基づく同意を得て、安全な医  
療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その  
成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医  
療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医  
療に貢献します。

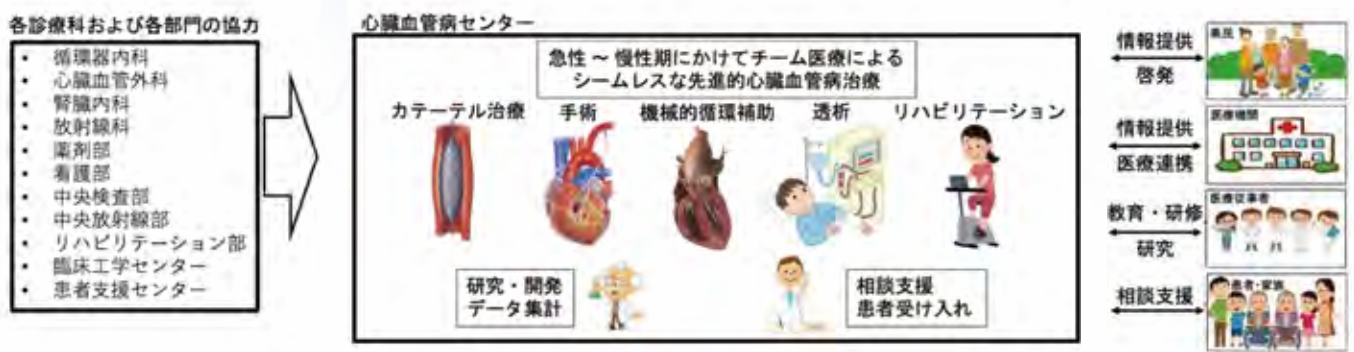
広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学校の校章にも採用されています。

# 心臓血管病センターの 設置について

2023年11月1日に心臓血管病センターが設置されました。心疾患の患者さんは血管病や腎臓病など心臓以外の問題を抱えることが多いため、しばしば複数の診療科での治療が必要です。また、高度先進医療の提供には医師に加え、医療機器・薬剤・リハビリテーション等の各種専門職の介入も必須です。そこで、当院の心臓血管疾患の関連診療科および各部門が”One Team”として医療を提供できる枠組みとして心臓血管病センターを設立しました。

図1) 心臓血管病センター(センター長：西村好晴 教授、副センター長：田中篤 教授)



## 循環器内科

虚血性心疾患の診療では、複雑な冠動脈病変、通常と異なる原因による狭心症(微小血管狭心症)、ショック等の重症例に対応するために過去2年間で、エキシマレーザー冠動脈形成術、血管内破砕術カテーテル、系統的冠微小循環障害診断、循環補助用心内留置型ポンプカテーテル(Impella)を導入しました。

不整脈においては現在県内で唯一、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医2人体制で先進的な不整脈治療を提供しており、カテーテルアブレーション治療では、高周波アブレーションに加えて、冷凍(クライオ)アブレーションが実施できます。また、植込み型デバイス治療(ペースメーカー・植込み型除細動器・心臓再同期療法等)は、全ての植込み手術に対応し、エキシマレーザーを用いたリード抜去術も県内初で開始しました。

弁膜症では大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術が透析患者さんにも適応拡大され、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術(マイトラクリップ)の導入により、胸開手術リスクが高いとされていた患者さんもカテーテルで治療を受けていただけます。

心筋肥大を来す心筋症(肥大型心筋症、心アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど)に対する専門的な診療を提供する外来も開設しており、従来治療困難とされてきた心アミロイドーシス等に対する薬治療が可能になっています。

これら全ての治療は多職種連携が必須の高度先進医療で心臓血管病センターの強みが活かされます。

図2) エキシマレーザーを用いた冠動脈治療 (画像提供/株式会社フィリップス・ジャパン)

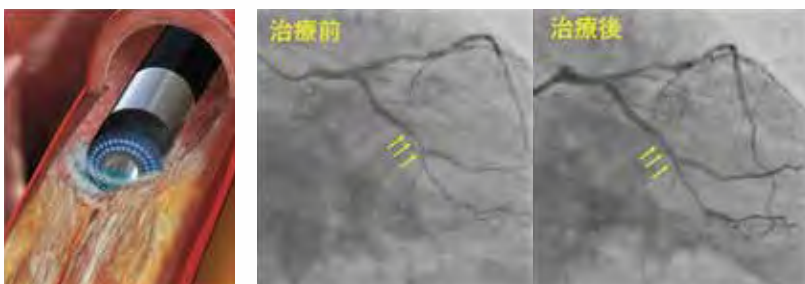
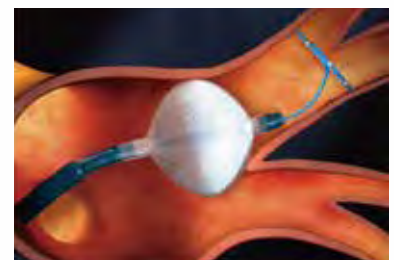


図3) 心房細動に対する冷凍(クライオ)アブレーション (画像提供/日本メドトロニック株式会社)



## 心臓血管外科

心臓血管外科は以前から手術において、麻酔科や臨床工学センター、看護師と連携してチーム治療を行っていました。そこに循環器内科、腎臓内科、放射線科、リハビリテーション部、患者支援センター等が幅広く連携することで、術前・術後も含めたトータルなチーム医療が可能となります。これまで以上に幅のある効率的なチーム医療が行えるようになります。これからの我々の活躍にご期待ください。

図4) 心臓血管外科チーム



図5) 人工心肺補助装置を用いた心臓手術時の心臓血管外科と臨床工学技士の連携

## 臨床工学センター

臨床工学技士 (Clinical Engineer : CE) は医療機器のスペシャリスト、言い換えれば「いのちのエンジニア」として、医療機器の操作や管理を通してチーム医療に貢献しています。心臓血管病センターでの CE の役割は、虚血性心疾患や不整脈に対するカテーテル治療のサポート、心臓ペースメーカ植込み手術の補助や術後管理、さらには退院後の遠隔モニタリングに携わっています。心臓血管外科手術では心臓を停止させて手術を行うための、人工心肺装置などの操作や管理を行います。さらに、救急院内急変緊急手術などで人工心肺装置が必要な場合にも24時間365日対応できる体制を整えています。

図6) 臨床工学センタースタッフ



日々進化する高度な医療機器を適切に用いるためにCEは医療現場で必要不可欠な存在となっています。心臓血管病に対する高度で安全な治療をサポートするため、循環器内科医、心臓血管外科医、看護師ら多職種が丸となって医療の質の向上に努めています。

### 心臓血管病センター設置についての記者発表の様子

- 写真左：内科学第4講座  
塩野泰紹講師
- 写真中央：心臓血管病センター  
西村好晴センター長
- 写真右：田中 篤副センター長



# B細胞性悪性リンパ腫に対 CAR-T(カーティー)細胞療

## 「B細胞性悪性リンパ腫」とは？

悪性リンパ腫はリンパ球という細胞がガンになった病気です。リンパ球はB細胞、T細胞、NK細胞に分けられます。これらのうち、B細胞(Bリンパ球)に異常が起こり、無制限に増殖することで発症したがんを総称してB細胞性悪性リンパ腫といいます。B細胞性悪性リンパ腫にはたくさんの種類がありますが、「びまん性大細胞型Bリンパ腫」や「濾胞性(ろほうせい)リンパ腫」はB細胞性悪性リンパ腫の代表的な病気です。

## 「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫」の特徴とその治療法

びまん性大細胞型B細胞リンパ腫は、悪性リンパ腫全体の約4割を占める一番多い病気です。抗CD20抗体と化学療法(抗がん剤を使った治療)の併用療法などが標準治療として行われますが、一部の患者さんでは、効果がみられなかったり、治療効果がみられても再発してしまいます。このような患者さんに対しては、患者さんの状態を考えあわせ、自家造血幹細胞移植併用大量化学療法を行うことが一般的です。最近では、自家造血幹細胞移植を受けることができなかった、またはうまくいかなかったびまん性大細胞型Bリンパ腫の患者さんに対する治療として、CAR-T(カーティー)細胞療法が使えるようになりました。

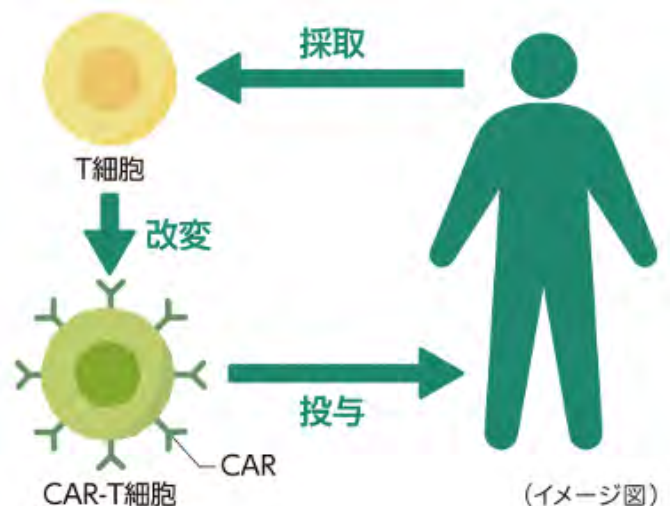
## 「濾胞性(ろほうせい)リンパ腫」の特徴とその治療法

濾胞性リンパ腫は、悪性リンパ腫全体の約2割を占める2番目に多い病気です。一般的に年単位で緩徐に進行するゆっくり型のガンです。濾胞性リンパ腫は、緩徐に進行しますが、治療をおこなっても再発を繰り返すといった特徴があります。そのため複数の治療を経験することも多く、その結果治療がうまくいかなくなる可能性があります。最近では、治療がうまくいかなかった再発・難治性の濾胞性リンパ腫患者さんに対する治療として、CAR-T(カーティー)細胞療法が使えるようになりました。

## 「CAR-T細胞療法」とは

CAR-T細胞とは、Chimera antigen receptor-T(キメラ アンチゲン レセプター-T)細胞の略です。がん細胞への攻撃性を高めるように設計したT細胞のことをCAR-T細胞といいます。今回、血液内科ではCD19という蛋白質を認識して、B細胞を攻撃するCAR-T細胞を使った治療を開始しております。

(出典：<https://www.product.gan-kisho.novartis.co.jp/kymriah/car-t>)

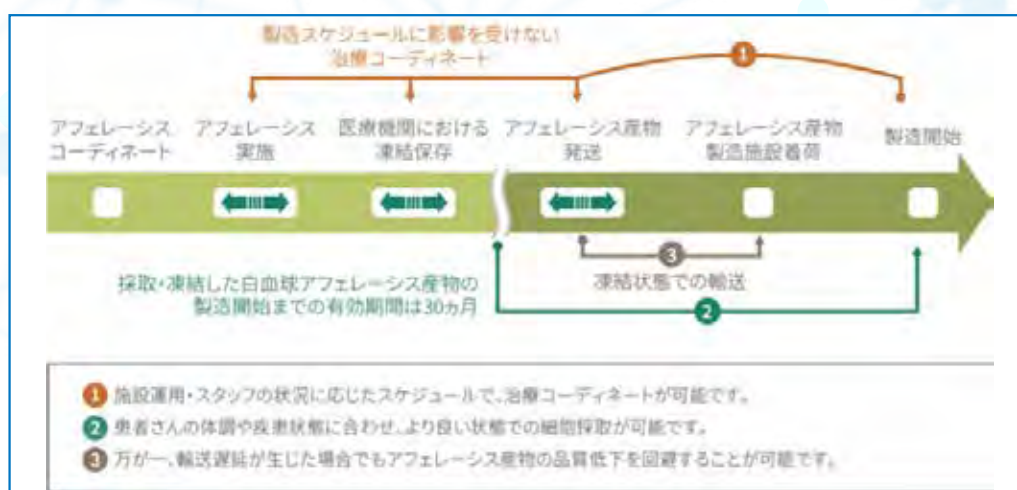


# する 法を開始しました！

## 「CAR-T細胞療法」の実際

CAR-T細胞療法の流れを下図に示しています。まず患者さんの血液中に流れているT細胞を採取します(アフェレーシスといいます)。採取したT細胞を厳密に温度管理された冷凍庫に凍結保存します。凍結保存した細胞(アフェレーシス産物といいます)を製造担当施設に発送し、CD19を認識して攻撃するようなCAR-T細胞を製造します。製造されたCAR-T細胞は凍結された状態で、病院に届けられ、患者さんに投与されます。

(出典：<https://www.kymriah.jp/hcp/results/flexibility.html>)



現在、日本で使用可能なB細胞性悪性リンパ腫に対するCAR-T細胞には、Tisagenlecleucel (チサゲンレクルユーセル)、アキシカブタゲンシロルユーセル(Axicabtagene ciloleucel)、リソカブタゲンマラルユーセル(Lisocabtagene maraleucel)の3種類があります。この治療の製造過程において、アフェレーシスが病院で行われるため、きちんとした器材、設備、専門人員が確保されている病院であることが肝要です。そのため、CAR-T細胞療法を行うためには、外部機関による施設認定を受ける必要があります。当院は施設認定を受けるため、約3年間の準備を経て、2023年5月にTisagenlecleucelの施設認定を取得しました。2023年11月段階で、日本国内でTisagenlecleucel投与可能な施設は47施設です。今後、当院は、Axicabtagene ciloleucelの施設認定を受審する予定です。

## 最後に

「CAR-T細胞療法」は薬が効きにくかった患者さんや再発された患者さんにとって、革新的で有効な治療法です。また、大量の抗ガン剤を使用する自家造血幹細胞移植に比較して、抗がん剤による短期的・長期的な有害事象が少ないと考えられます。「CAR-T細胞療法」が必要な患者さんに適切な時期に提供できるよう、準備しております。

# 教授就任挨拶

## 次世代の救急・集中治療人材の育成を目指して



救急・集中治療医学講座  
教授 井上 茂亮

令和5年10月1日付で、和歌山県立医科大学 救急・集中治療医学講座教授、および附属病院高度救命救急センター長を拝命いたしました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

当院高度救命救急センターは県内から重症患者が集約される全国トップクラスのハイボリュームセンターです。このような素晴らしい伝統と実績

に、私がこれまで培った経験や人脈を重ね合わせ教育システムを充実させることで、さらなる人材育成に邁進したいと思います。また院内の医療安全対策と南海トラフ大地震などの災害対策にも全力に取り組む所存です。

日本では急激な高齢化と労働者人口の減少、都市部への人口集中と地域の過疎化が加速します。今後はドクターヘリのみならず、地域でのIoTや遠隔診療を活用した救急・集中治療が展開される時代になると思います。変わりゆく時代を見据えながらも、つねに患者や家族に寄り添う温かい心、そして患者のために常に学び続ける姿勢を忘れずに、次世代の救急・集中治療人材を育成し、地域医療に貢献します。

### 経 歴

2000年3月	香川医科大学医学部医学科 (現：香川大学院医学部医学科) 卒業	2014年5月	米国ヴァンダービルト大学医学部 臨床研究マスターコース(MSCI) 修了
2000年4月	京都大学医学部附属病院 整形外科 研修医	2015年4月	東海大学医学部付属八王子病院救急センター長 外科学系 救命救急医学 専任准教授
2002年4月	東海大学専門診療学系 救命救急医学 臨床研修医	2018年7月	神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 災害・救急医学分野 先進救命救急医学部門 特命教授
2008年3月	東海大学大学院医学研究科 外科系専攻博士課程修了	2023年10月	和歌山県立医科大学 救急・集中治療医学講座教授 和歌山県立医科大学附属病院 高度救命救急センター センター長
2008年4月	米国セントルイス ワシントン大学医学部麻酔科 博士後研究者		
2010年4月	東海大学専門診療学系 救命救急医学 講師		

### 診 療 内 容

和歌山県立医科大学高度救命救急センターは、2003年に全国の国公立大学に先駆けてドクターヘリが導入された伝統ある施設です。2022年度の救急車件数は5,835件、walk-in 5,668件、ドクターヘリ搬送件数513件、緊急外科手術283件と、県内から重症患者が集約される全国トップクラスのハイボリュームセンターです。22名のスタッフで、ドクターヘリ診療・ER診療・ICUおよび病棟管理・災害医療を展開しています。当科では、1次から3次までの救急外来診療におけるスキルは当然として、外傷外科学、集中治療医学、IVR、内視鏡診療などのサブスペシャリティを有し、他診療科の先生方と連携して治療を進めることのできるコミュニケーション能力の高い医師が揃っております。このような診療基盤をもとに、今後は先進的かつ前衛的な救急・集中治療医療を展開し、地域の急性期医療のさらなる発展を目指します。

## きのくに医療連携システム「青洲リンク」10周年記念講演会を開催しました

2013年に発足した、きのくに医療連携システム「青洲リンク」は、今年10周年を迎えました。そこで、2023年9月9日に「医療情報を活かす未来へ～あなたの情報を安全に活用するためには～」と題し、本学講堂にて記念講演会を開催しました。

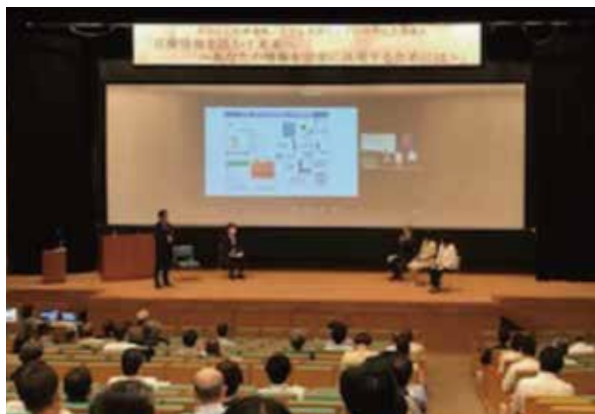
講演1「青洲リンク稼働10年～助走から稼働後を振り返る～」では、青洲リンク構築の目的から基本機能、その後追加された機能などについて講演を行いました。また、講演2「保健医療介護福祉分野のDX潮流を踏まえた情報化地域社会の協創」では、今後の情報化社会を見据えた国の動きや具体的な未来の病院像について、講演を行いました。

また、「自分の医療情報はどう使う、はじめてでもわかる青洲リンク、きのくに電子お薬手帳、PHRアプリの活かし方」をテーマにパネルディスカッションを行いました。医療情報部 西川彰則部長がコーディネーターと

して、医師・薬剤師・看護師・患者それぞれの立場のパネリスト(発表者)の皆さんに、「受診時にほかの医療機関での診療内容を伝えるのに苦労したこと」や「家族の診療情報がわかれば便利だったこと」などを質問し、きのくに電子お薬手帳やPHRアプリの便利な使い方や今後期待することなど活発なご意見をいただきました。

PHRアプリは、青洲リンクに参加し、アプリをスマートフォンにインストールすることで、青洲リンクに登録している自分や家族の検査結果やお薬などの情報をいつでもどこでも自分のスマートフォンで見ることができる便利な機能です。

登録手続きは、平日10時～16時まで、附属病院3階医療情報部内の青洲リンク事務局で行っています。手続きの際には、診察券と本人確認書類(運転免許証やマイナンバーカードなど)をお持ちください。



▲「青洲リンク」10周年記念講演会の様子

### きのくに医療連携システム「青洲リンク」とは

「県民の皆さまに安心して医療サービスを受けていただきたい」、「災害が発生した場合でも、県民の皆さまの大切な診療情報を守り、迅速かつ適切な医療サービスの提供を行いたい」という思いから誕生した和歌山県の医療連携ネットワークです。今までに受診された医療機関の投薬・検査などの診療情報を県内の参加医療機関間で必要時にシステムを使って共有し、安心・安全で質の高い医療サービスを提供することを目的としています。

きのくに医療連携システム  
**青洲リンク PHR機能**  
**NOBORI アプリ**

自身の  
医療情報を  
スマートフォンで  
見よう

病院の検査結果やおくすり情報をスマートフォンで見ることが出来ます。

面会できなくてもご家族のスマートフォンで検査結果などを見ることが出来ます。

退院後かかりつけ医さんに受診する際もスマートフォンを見てもらうと便利です。

遠方のご家族の情報も見ることが出来るので安心です。

●ほかにも便利なノート機能や血圧手帳があります。  
※件別とは個人が自身の医療や健康に関する情報を記録し、自身の手元で管理するサービスです。

利用手続きは青洲リンク事務局まで(病院3階 医療情報部内)  
手続き時間 平日 10～16時 TEL: 073-441-0858

## 中央部門紹介

### - 薬剤部 -

現在、当院の薬剤部には、約40名強の薬剤師と10数名の業務補助員が業務にあたっています。近年、薬剤師に求められる役割が大きく変化してきました。これまでは、処方箋の内容に間違いがないか、その患者さんに応じた薬が処方されているかなど確認しつつ、薬を正確に患者さんにお届けする「調剤」を主な業務としていました。しかし、このように薬だけを見ていた(対物業務)時代は終わり、今は医師や看護師などとともに患者さんに寄り添いながら、安心・安全な薬物療法を提供すること(対人業務)が求められています。そのため薬剤師は、調剤室だけでなく病院内のありとあらゆる場所に赴き、そこで使用される薬を管理しながら適切な薬物療法を届けるよう努めています。

このように薬剤師の活動の場が増え、患者さんのため、安全のため、医師の負担軽減のためにと様々な業務を行っていますが、一方で、

必要な薬剤師の人員や負担も増えてきました。限られた人員のなか安全を確保しながら業務を効率化するため、調剤業務の機械化、自動化を進めています。最近では、注射薬を自動で取り揃えるシステムを導入し(写真1)、薬剤師の負担の軽減につながりました。また、薬剤師以外のスタッフ(業務補助員)を雇い、薬剤師と共同で調剤を行っています。ただし、薬剤師以外のスタッフが調剤する際には、各薬剤に付されているバーコードをハンディターミナルで読みとり、取り間違いが起らないようにしています(写真2)。その他にも薬剤師以外のスタッフが代行することで人員を確保し、薬剤師が患者さんに寄り添う時間を確保しています。今後、この領域でもデジタル変革の波が押し寄せてきますが、時代の潮流に遅れることなく適切に安心安全な医療を届ける薬剤部でありたいと思っています。



写真1) 注射薬自動払出システム



写真2) 薬剤師以外のスタッフによるハンディターミナルを用いた薬の取り揃え

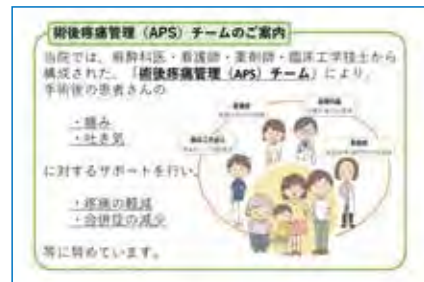




## 術後疼痛管理チーム (APS: Acute Pain Service) について

術後疼痛管理 (APS) チームとは、手術を受けた患者さんの術後回復を促進させることを方針とし、活動するチームです。術後の痛みは、手術直後から24時間がピークとされており、適切に疼痛管理をおこなうことで早期離床・早期回復に繋がります。

現在、全身麻酔手術を受け、鎮痛薬の持続投与をおこなっている患者さんを対象とし、麻酔科医師、手術室看護師、薬剤師で回診を行っています。回診時、患者さんは「全然痛くない。早く手術してよかった」と話され、リハビリに積極的に取り組む様子がみられます。手術後「痛い」や「気持ち悪い」などの症状があった際は、術後疼痛管理 (APS) チームがサポートさせていただきますので、お気軽にお声かけください。



## 当院のボランティアさんの活動を紹介します

当院では、患者さんが安心して医療を受けることができるように、「和医大ボランティアの会」の皆さんが、ボランティア活動を行ってくださっています。

この活動は、平成11年5月(公園前から紀三井寺に移転後)から始まり、ボランティアさんの中には、その頃から20年以上活動して下さっている方もいらっしゃいます。病院の玄関で患者さんをお迎えし、受診科まで案内したり、車いす介助をしてくださっています。

### ボランティアさんからのコメント

1日の活動は、笑顔で接し元気な声であいさつをすることから始まります。患者さんが必要であれば手助けをし、あまり必要とされない方にはお声がけをしています。とにかく無理をしないこと、自分のできる範囲でやるのが大事だと思って活動しています。人と人との出会いを大切に、たとえ一時の瞬間でも患者さん一人ひとりが違うことを理解して、行動、安全に気を配ることも大事にしています。

患者さんから「ありがとう」「たすかったよ」との心地よい響きのお言葉をいただき、こちらこそ、ありがとうと心からの感謝の気持ちと充実感・精神的な喜びも大きいのです。ボランティア活動を通じ、数々の体験や感動が得られ、私自身も成長できているように思っています。



▲ 車いすの介助をするボランティアさん



▲ ボランティアの皆さん



○ 現在、一緒に活動していただける方を募集しています。活動にご興味のある方は、【医事課 医事管理班】までお問い合わせください。

## 当院にて実施しました「VRによる自宅仮想現実映像を用いた緩和ケアへの応用」について、研究結果の発表を行いました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、感染リスク低減のための入院患者への面会制限と患者・家族の繋がりを大切にするケアの両立の必要性を強く感じました。そこで、医学部・看護部・保健看護学部・薬学部で構成する共同プロジェクトチームでがん患者さんに対するICT技術を応用したプロジェクトを実施しました。ご家族に撮影頂いた自宅などの3D動画を、VRゴーグル(バーチャルリアリティ専用ゴーグル)を使って、患者さんと家族で視聴しながら、電話などでコミュニケーションを取って頂きました。患者さんは思い出の場所や、家族や同僚と過ごした日常を取り戻す体験を希望し、VR視聴により時間と空間の共有というリアルなつながりを実感したことで、普段以上にコミュニケーション

が促進された結果、入院生活の辛さが緩和することが明らかとなりました。本研究に参加して下さった患者さん、家族の方々に深謝いたします。



▲ 研究結果の記者発表の様子：(写真左)看護部 向友代看護師長、(写真中央)寄附講座 探索的がん免疫学講座 山上裕機教授 (写真右)、緩和ケアセンター 月山淑センター長

## VRを用いた新しい医学教育の実践、臨床実習における教育効果について

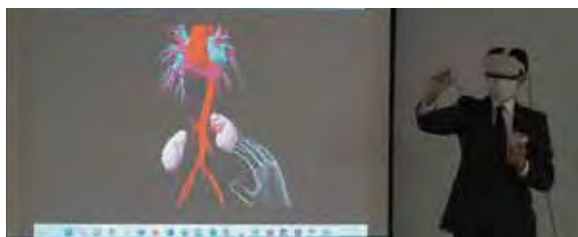
本学医学部の臨床実習では、新型コロナウイルス感染症の流行中、学生は病院の検査室や手術室に立ち入ることができず、臨床実習が十分に行えない事態に追い込まれました。そこで本学はデジタル医療教育用の仮想現実 (VR) システムを導入し、教育研究開発センターが中心となって教材の作成に取り組み、令和5年4月から全国の医学部でも導入が進んでいないVRを使った新しい医学教育を開始しました。

医学生は、VRを用いて心臓カテーテル検査や血管内治療をバーチャル体験するとともに、いろいろな疾患の3DモデルをVR空間内で自由に操作し、各種疾患の理解を深めています。また、教育効果を検証したところ、VRを用いた実習は従来の実習よりも理解度が向上したことが確認されました。

本学は今後も最新の技術を用いた教育を展開し、優れた医療人を育成していきます。



▲ 【現場体験型VR】



▲ 【3D-CT VR】



▲ 【VRを用いた臨床実習】

## 和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)養成プラン市民公開講座

### 『がん治療に伴う外見上のお悩みありませんか?』

- **日時** … 令和6年1月20日(土) (開場 … 12:30) 入場料無料
- **開催場所** … 和歌山県立医科大学 講堂【ZOOM配信あり】
- **講師** … 株式会社 makemerelax (メイクミーリラックス) 代表 さとう 桜子 様
- **講演内容** … 『美しく輝くがん患者でいよう』
- **参加方法** … スマホ等で下記QRコードを読み込むか、郵送またはFAXに下記必要事項を記入の上、お申し込みください。  
・お名前(ふりがな)・電話番号・FAX番号・手話通訳や要約筆記など必要な配慮の要否・講師への質問



【現地参加用】  
申込み切1月19日(金)※



【ZOOM参加用】  
申込み切1月10日(水)

※手話通訳や要約筆記など特別な配慮の必要な方は1月10日(水)まで

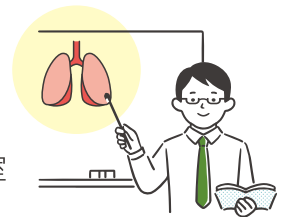
【申込先】 右のQRコード申込フォームから

【郵送】 〒640-8509 和歌山市紀三井寺811-1 和歌山県立医科大学経理課 【FAX】 073-441-0706

## 最新の医学・医療カンファランスのお知らせ

第10回市民公開講座「最新の医学・医療カンファランス」を下記のとおり開催します。本講座は、一般の方に最新の医学・医療情報等を提供し、教養を深め、健康や治療に役立てていただくことを大きな目的として開催しています。医学・医療に関する専門的知識は必要ありませんので、興味のある方は、ぜひご参加ください。(定員は先着30名まで)

- **日時** … 令和6年3月14日(木) 14:00 ~ 16:00
- **講演1** 『肺癌の低侵襲手術と最新治療』
- **講演2** 『痛みを理解する：慢性疼痛につながる痛み記憶』
- **開催場所** … 和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス 図書館棟3階研修室
- **申し込み** … 生涯研修センター / TEL: 073-441-0789



## ～当院では、未来の医療を担う医学生が臨床実習を行っています～ - 医学生の診療参加型臨床実習について -

当院には、皆さまに安全で質の高い医療を提供するだけでなく、豊かな人間性と優れた医療技術を持った医療人を育成する責務があります。これまでも医学生は外来や病棟における診療を見学させていただいておりましたが、よい医師になるためには、診療チームの一員として実際の患者さんを診療し学ぶことが必要です。このような実習を「診療参加型臨床実習」と呼びます。

臨床実習を開始する前に習得すべき知識・技能・態度を評価する全国統一の試験として「共用試験」があります。この試験に合格した医学生は「スチューデント・ドクター」の資格を与えられ、当院や他の医療機関で、医師の指導、監督の下、臨床実習を行っています。医学生が医師となるために必要な知識と技術、態度を習得できますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



◀ 当院医師の指導の下、病棟で臨床実習を行う医学生

### 医学部の使命

#### 大学の教育理念

和歌山県立医科大学は、医学、保健看護学及び薬学に関する基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材を育成することにより、和歌山県の医療・保健の充実を図り、もって文化の進展と人類の健康福祉の向上に寄与する。

#### 医学部の教育目標

医学部教育においては、幅広い教養、豊かな思考力と創造性を涵養し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材、高度で専門的かつ総合的な医学的能力を身につけた人材、コミュニケーション能力及びリーダーシップを備えた協調性の高い人材、地域医療及び健康福祉の向上に寄与するとともに、国際的にも活躍できる人材を育成することを目標とする。



▲ 医学部の教育理念及び教育目標

## 予約センターからのお知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「予約制」とさせていただいております。ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

### ■ 医療機関からのご予約

- 1 かかりつけの医療機関などから当院所定の「**予約申込書**」にて電話予約センターにFAX送信してください。
- 2 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- 3 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)・服用中のお薬・お薬手帳**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

### ■ ご本人からのご予約

- 1 かかりつけの医療機関などで**紹介状**をご用意ください。  
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- 2 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- 3 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)・服用中のお薬・お薬手帳**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

### 電話予約センター(患者支援センター)

TEL **073-441-0489**

(受付時間: 月～金 … 8:30～16:00)

FAX

**073-441-0805**

(受付時間: 月・火・水・金 … 9:00～19:00 / 木 … 9:00～17:00)

※ 院内に予約窓口も開設しています。(月～金 … 9:30～17:00)

### 外来アプリのご案内

病院外来アプリ「Sma-pa」のインストールにより会計の計算完了済みの番号や外来の呼び出し番号をスマートフォンでご覧いただけます。食堂・コーヒESHOP・喫茶店、駐車場でも順番を確認いただけます。

また、事前にクレジットカードを登録することで、外来診療後に会計を待たず、すぐにお帰りいただくことができます。

(外来受診来院毎に、後払いを希望する場合は受付が必要です。)

右記からダウンロードの上、ぜひご利用ください。



アプリの  
ダウンロードは  
こちらから



スマパ

検索



### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1. 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3. 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

### 患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
2. 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
6. 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。